

コンパウンドの世界市場を調査

2019年は自動車生産台数の減少により縮小も、2023年に向けて市場は拡大

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 清口 正夫 03-3664-5811)は、ガラス繊維や難燃剤などを配合し樹脂の機能性向上を図れることから幅広い分野で使用されるコンパウンドの世界市場を調査した。その結果を「[2020 コンパウンド市場の展望とグローバルメーカー戦略](#)」にまとめた。

この調査では、コンパウンドをはじめ、添加物・フィラーの市場や用途・価格・開発動向などを調査・分析した。また、需要の中心となる中国の経済成長の低迷などから、事業の買収・売却や工場の新増設・統廃合を進める有力樹脂メーカーやコンパウンドメーカーなど58社の生産・エリア別の販売動向などもあわせて整理した。

<調査結果の概要>

■コンパウンドの世界市場

2019年見込	2018年比	2023年予測	2018年比
3,091万トン	95.8%	3,442万トン	106.7%
9兆8,850億円	95.3%	10兆8,717億円	104.9%

新興国を中心とした経済成長に伴い市場は拡大してきた。しかし、2019年の市場は拡大をけん引してきた中国の経済成長の鈍化と世界全体での自動車生産台数の減少により縮小するとみられる。汎用樹脂コンパウンドは、多くの用途で需要が減少しており大きく縮小する一方、スーパーエンブラコンパウンドは、自動車分野や電気電子分野における高耐熱化や軽量化のニーズの高まりにより微減にとどまるとみられる。

長期的には中国の需要回復や、東南アジアやインドなどアジア地域を中心とした国々の経済成長により需要が増加し、市場は拡大していくとみられる。

【地域別】

自動車や電化製品などの最終製品の生産が多い中国の需要が40%以上を占めている。また、スーパーエンブラコンパウンドは自動車の高性能部品で採用されることから日欧米など先進国の需要が60%近くを占める。

【用途別】

自動車分野や電気電子分野の需要が高く、それぞれ35%以上を占める。

自動車分野はPPコンパウンドが40%以上、PVCコンパウンドが30%以上を占める。安価な汎用樹脂コンパウンドは、内外装部品など大型部品を中心に採用されており、内外装部品以外の燃料系部品、機構部品、電装部品では耐熱性や耐薬品性、機械的強度に優れる汎用エンブラ、スーパーエンブラコンパウンドが多く使用されている。また、PPコンパウンド、PA66コンパウンド、PA6コンパウンド、PBTコンパウンドではガラス繊維で強化した製品も多く使用される。

電気電子分野では、電線被覆に用いられるPVCコンパウンドが45%近く、電気器具に用いられているABSが25%以上を占める。汎用樹脂コンパウンドは電線被覆や電子機器筐体に用いられており、難燃性を付与した製品が使用される。汎用エンブラコンパウンドでは家電、OA機器、AV機器など様々な用途で使用されるPCコンパウンドの割合が高い。

■カテゴリー別動向

	2019年見込	2018年比	2023年予測	2018年比
汎用樹脂コンパウンド	2,599万トン	95.6%	2,900万トン	106.7%
汎用エンブラコンパウンド	466万トン	96.9%	510万トン	106.0%
スーパーエンブラコンパウンド	26.7万トン	98.2%	31.5万トン	115.8%

汎用樹脂コンパウンドはコンパウンド市場の80%以上を占め、特にPVCコンパウンド、ABSの割合が高い。PPコンパウンドとABSは、自動車生産台数の減少や世界経済の低迷により2018年から縮小しており、二年連続マイナスになるとみられる。PEコンパウンドは住宅投資やインフラ整備、PVCコンパウンドは電線被覆や自動車、PSコンパウンドは家電やOA機器の需要と連動しており、2019年は軒並み縮小するものの、今後は自動車や消費財などの需要回復により、再び市場は拡大していくとみられる。

汎用エンブラコンパウンドはPCコンパウンド、PA66コンパウンド、PBTコンパウンドの割合が高い。自動車分野の需要が高い樹脂が多いため、2019年は全ての品目で縮小が予想される。なお、PA66コンパウンドとm-PPEは需給のひっ迫が続いていたが、2019年は需要減退により供給に若干の余裕がみられた。

スーパーエンブラコンパウンドは、PPSコンパウンドが40%以上を占めており、PA6Tコンパウンド、LCPコンパウンドなども割合が高い。PPSコンパウンドは自動車分野でも多く採用されており、2019年は伸び率が鈍化するものの拡大が続くとみられる。また、LCPコンパウンドはスマートフォンでの採用部品数の増加により、PA9Tコンパウンドは他材料からの代替需要獲得により2019年も拡大するとみられる。

<注目市場>

●PPコンパウンド【汎用樹脂コンパウンド】

2019年見込	2018年比	2023年予測	2018年比
519万トン	94.9%	576万トン	105.3%

汎用的なプラスチックとして、自動車、電気電子、食品包装フィルム、玩具、雑貨といった幅広い分野で使用される。用途の90%以上が自動車分野であり、市場は自動車生産台数の減少や世界経済の低迷により、2018年は微減となり、2019年は2018年比5.1%減と2年連続で縮小するとみられる。

自動車分野では内装部品や外装部品を中心に採用される。ECU筐体向けが新たな用途として注目されており、アルミニウム合金からの代替として、ガラス繊維により耐熱性を向上させたPPコンパウンドの採用が進んでいる。注目のグレードは、長繊維のガラス繊維で強化した製品である。耐衝撃性に優れており、自動車の軽量化ニーズの高まりにより自動車の外装部品を中心に採用が増えている。また、炭素繊維強化グレードの開発も行われており、価格やリサイクルの観点から汎用樹脂コンパウンドの中ではPPコンパウンドの採用が期待される。

長期的には自動車生産台数の増加に伴うPPコンパウンドの需要増加により、市場は再び拡大が予想される。

●PA66コンパウンド【汎用エンブラコンパウンド】

2019年見込	2018年比	2023年予測	2018年比
111万トン	97.4%	120万トン	105.3%

機械的特性、耐薬品性、成形性に優れており、ガラス繊維を配合して耐熱性や機械的特性をさらに向上させて使用することが多い。2017年、2018年と原料需給のひっ迫が続き、数量ベースで伸びが緩やかだった一方、金額ベースは価格上昇により大幅に拡大した。2019年は自動車生産台数の減少により自動車分野の需要が落ち込み、市場は数量・金額ともに縮小するとみられる。需要減少により供給に若干の余裕がみられたものの、価格は変わらず高く、PA6コンパウンドなど他の樹脂への切り替えを模索する動きがでてきている。長期的には原料メーカーの供給能力の増強により原料不足は解消され、市場は数量ベースで拡大、金額ベースで縮小が予想される。

用途別では、自動車分野の需要が最も高い。金属代替・軽量化ニーズの高まりにより需要が増加しており、先行する欧州では、エンジンルームや機構部品以外にも、コネクタ部品や外装部品などで多く採用される。また、エリア別にみると、先進国は自動車分野の需要が高い一方で、新興国では先進国から生産移管の進んだ電気電子分野の需要も高い。注目のグレードとしては、耐熱性ととも耐熱老化安定性を高めた高耐熱PA66コンパウンドがあげられる。自動車のエンジン周辺部品での採用が期待され、PA6コンパウンドや高耐熱PAコンパウンドなどと競合するとみられる。

●PPSコンパウンド【スーパーエンブラコンパウンド】

2019年見込	2018年比	2023年予測	2018年比
124,500トン	101.3%	147,100トン	119.7%

機械的強度や耐薬品性、高耐熱性、寸法安定性、耐湿熱性、成形加工性に優れ、樹脂自体に難燃性があり自己消火性も保有する。2017年、2018年とHV/EV用耐熱部品の需要増加により高い伸びとなった。2019年は自動車生産台数の減少に伴い需要が減少し、市場は2018年比1.3%増と小幅な伸びになるとみられる。

用途別では自動車分野の需要が最も多く、60%以上を占める。HV/EVの普及に加え、新興国ではまだPPSコンパウンドの使用量は多くないことから、採用の進展による市場拡大が期待される。

●PAEKコンパウンド【スーパーエンブラコンパウンド】

2019年見込	2018年比	2023年予測	2018年比
7,190トン	90.3%	8,760トン	110.1%

耐熱性や摺動特性、生体適合性、放射線透過性、自己消火性などに優れている。自動車や航空宇宙産業における金属代替、軽量化などのニーズもあり市場は高い伸びが続いていたが、2019年は欧州や中国で自動車部品や半導体装置の需要が停滞したことで、縮小するとみられる。

ガラス繊維や炭素繊維で強化した製品などが展開されているほか、ユーザーのニーズに対応して開発されるケースも多い。生産能力の増強や中国メーカーを中心とした新規参入の増加により価格低下も進んでおり、価格以外の価値訴求として、大手メーカーはギア部品（自動車や産業機器など）、航空機部品、医療機器などの加工メーカーとの共同開発を積極的に進めている。

長期的には、自動車の軽量化の進展による自動車関連での採用拡大、航空宇宙や半導体装置部品、医療分野などでの需要増加により市場は拡大していくとみられる。

<調査対象>

コンパウンド・添加剤・フィラー市場			
汎用樹脂 コンパウンド	・PPコンパウンド (ポリプロピレン) ・PEコンパウンド (ポリエチレン)	・PVCコンパウンド (ポリ塩化ビニル) ・PSコンパウンド (ポリスチレン)	・ABS (アクリロニトリル・ ブタジエン・スチレン)
汎用エンブラ コンパウンド	・PCコンパウンド (ポリカーボネート) ・PA6コンパウンド (ポリアミド6) ・PA66コンパウンド (ポリアミド66)	・POMコンパウンド (ポリアセタール) ・m-PPE (変性ポリフェニレンエーテル) ・PBTコンパウンド (ポリブチレンテレフタレート)	・GF-PET (ガラス繊維強化ポリ エチレンテレフタレート)
スーパーエンブラ コンパウンド	・PPSコンパウンド (ポリフェニレンサルファイド) ・LCPコンパウンド (液晶ポリマー)	・PA6Tコンパウンド (ポリアミド6T) ・PA9Tコンパウンド (ポリアミド9T)	・PAEKコンパウンド (芳香族ポリエーテルケトン) ・PTFEコンパウンド (ポリテトラフルオロエチレン)
添加剤・フィラー	・ガラス繊維	・難燃剤	
企業事例			
日本メーカー31社、中国メーカー7社、韓国メーカー5社、米国メーカー5社、欧州メーカー9社、他1社			

<調査方法>富士経済専門調査員による参入企業および関連企業・団体などへのヒアリングおよび関連文献調査、社内データベースを併用

<調査期間>2019年10月~2020年2月

以上

資料タイトル	「 2020 コンパウンド市場の展望とグローバルメーカー戦略 」		
体裁	A4判 364頁		
価格	書籍版	150,000円+税	
	PDF+データ版	160,000円+税	
	書籍/PDF+データ版セット	180,000円+税	
	ネットワークパッケージ版	300,000円+税	
発行所	株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号 PMO日本橋江戸通 TEL: 03-3664-5811 (代) FAX: 03-3661-0165 URL: https://www.fuji-keizai.co.jp/ e-mail: info@fuji-keizai.co.jp		
調査・編集	東京マーケティング本部 第五部 TEL: 03-3664-5821 FAX: 03-3661-9514		
この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL: https://www.fuji-keizai.co.jp/press/			